

令和 4 年度
東京都障害者差別解消支援地域協議会部会
(第 1 回)

令和 4 年 1 2 月 1 3 日

福祉保健局

(午後3時03分 開会)

○篠課長 それでは、定刻でございますので、ただいまから令和4年度第1回東京都障害者差別解消支援地域協議会の部会を開催いたします。

本日は、お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、このたびは本部会の委員にご就任をいただきまして、重ねてお礼申し上げます。

申し遅れましたが、私は東京都福祉保健局障害者施策推進部共生社会推進担当課長の篠でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、お手元に配付してございます会議資料の確認と委員のご紹介をさせていただきます。

本日、お手元にお配りしております資料は、1枚目の会議次第のほか、資料1、東京都障害者差別解消支援地域協議会設置要綱、資料2、東京都障害者差別解消支援地域協議会部会委員名簿、資料3、東京都障害者差別解消支援地域協議会部会－設置及び検討内容について、資料4－1、障害者理解促進特設サイト「ハートシティ東京」について、資料4－2、「ハートシティ東京」の改修について、資料4－3、ホームページ掲載原稿案について、資料5、情報保障に関する事例について、最後に、令和4年度第1回協議会部会の会議資料等に関わるご意見、ご質問等についての用紙でございます。資料は以上となっております。資料の不足等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、続きまして、本部会の委員の皆様についてご紹介をさせていただきます。

本日は7名の委員にご出席をいただいております。まず、私の正面に東洋大学人間科学総合研究所客員研究員、川内美彦部会長です。

○川内部会長 川内です。よろしくお願いいたします。

○篠課長 続きまして、そのお隣に特定非営利活動法人D P I 日本会議バリアフリー部会長補佐、工藤登志子委員です。

○工藤委員 工藤です。よろしくお願いいたします。

○篠課長 続きまして、そのお隣に公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟副会長、唯藤節子委員です。

○唯藤委員 よろしく願いいたします。

○篠課長 続きまして、そのお隣に公益社団法人東京都盲人福祉協会副会長、佐々木宗雅委員です。

○佐々木委員 佐々木です。よろしくお願いいたします。

○篠課長 続きまして、私の左側の方面になりますけれども、東京都精神保健福祉民間団体協議会家族会連合会副会長、本田道子委員です。

○本田委員 本田でございます。よろしくお願いいたします。

○篠課長 続きまして、そのお隣に特定非営利活動法人東京難病団体連絡協議会、吉田洋子委員です。

○吉田委員 吉田でございます。よろしくお願いいたします。

○篠課長 続きまして、そのお隣に一般社団法人東京経営者協会人材開発事業部課長、羽入田雪子委員です。

○羽入田委員 羽入田です。よろしくお願いします。

○篠課長 なお、本日の委員の出欠状況でございますが、加園委員、森山委員、宮澤委員、丹野委員、関哉委員より、所用によりご欠席の連絡をいただいております。

また、西田委員は所用により、遅れるとの連絡をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、進行上のお願いを申し上げます。委員には視覚に障害のある方もいらっしゃいますので、発言の際はどなたが発言されるのか確認できるよう、ご発言の前に所属とお名前をお願いいたします。

また、皆様の前にイエローカードをご用意しております。これは、議事の内容が分かりにくかったときなどに示していただくものでございます。このイエローカードの提示がありました際には、ご発言者はいま一度、ゆっくり、分かりやすくご説明お願いいたします。

なお、本協議会は、資料、議事録いずれも原則公開とさせていただきますので、ご発言に当たりましては、個人情報などにご配慮をお願いいたします。進行上の注意は以上でございます。

それでは、川内部会長から一言ご挨拶をいただきましてから、今後の進行をお願いいたします。

○川内部会長 皆さん、こんにちは、川内です。

オリンピック・パラリンピック前は競技施設の話とか、ユニバーサルデザインの話でよく講演を頼まれていたんですけども、最近、講演頼まれると、専ら合理的配慮の話ですね。いまだに合理的配慮でエレベーターつけるとか、トイレつけるとか、そういうふうな勘違いをしてる人たちもいて、合理的配慮がまだ十分に理解されていないというのは分かるんですけども、ただ、そういう言葉は広まりつつあるのかなという感じがします。合理的配慮のスタートというのは、ニーズを持つ人がどういう希望を持っているのかというのをきちんと聞き出すところから始まりますから、コミュニケーションがとっても大事になりますね。ということで、今日の参考資料にもありますけれども、国としても情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法というのをつくったりとか、それから東京都も最近、手話言語条例というのを制定したりとかということで、従来の鉄やコンクリートから、こういういわゆる情報障害のある方々への対応というふうにどんどん視野が広がってきているんですね。なので、この協議会の部会でもそのような議論がいろいろ交わされることになるだろうというふうに思っています。今日はよろしくお願いします。

それでは、早速ですが、議事に入りたいと思います。本日の議事は、障害特性に応じた情報保障の方法及び留意点等についてです。

まず、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○篠課長 それでは、議事について、まず資料の3及び資料の4-1、4-2に沿ってご説明させていただきます。ご用意をお願いいたします。

まず、資料3、「東京都障害者差別解消支援地域協議会部会－設置及び検討内容について－」をご覧ください。

1の設置目的でございますが、障害者差別解消支援地域協議会では、都が受け付けた相談事例や

都事業の報告などを行っておりますが、今般、特定のテーマを扱う部会を設置し、委員の専門的知見に基づいた対応等を検討するものでございます。

次に、2の地域協議会との関係をご覧ください。本部会の設置根拠は、東京都障害者差別解消支援地域協議会設置要綱第8条になります。

続きまして、3の検討テーマをご覧ください。今年5月に障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が成立、施行いたしました。全ての障害者があらゆる分野の活動に参加するためには、情報の十分な取得、利用、意思疎通が重要という認識の下で、地方公共団体などの責務や基本的施策が定められました。そこで、都といたしましては、障害特性に応じた具体的な情報保障の方法や留意点などの普及啓発を行うため、後ほどご説明いたしますハートシティ東京という特設サイトにおいて、掲載する内容を本部会でご検討いただきたいと考えております。なお、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の概要は参考資料1をご覧ください。

続きまして、4の検討スケジュールでございますが、今後、12月から来年3月にかけて2回程度の部会の開催を予定しております。

続きまして、資料4-1をご覧ください。障害者理解促進特設サイト「ハートシティ東京」についてと題しております。私も東京都で運用しております「ハートシティ東京」のサイト内容についてまとめた資料でございます。

まず、1の概要でございますが、東京都では、平成26年度より広く都民一般の障害者理解及び認識を深めるために、障害者理解促進特設サイトとして、「ハートシティ東京」を構築いたしまして、運用しているところでございます。このホームページの改修については、平成28年度に障害者差別解消法及び障害者虐待防止法のページを追加、そして平成30年度に東京都障害者差別解消条例のページを追加しておりまして、今回は3回目の改修となります。

次に、2のサイトの構成・内容ですが、大きく分けて8項目ございます。（1）東京都からのお知らせでは、庁内や区市町村のイベントのお知らせなどを掲載しております。（2）障害者差別解消法では、法の概要、不当な差別的取扱いや合理的配慮の提供と具体例、東京都の取組、事業主による差別について、改正障害者雇用促進法の内容など、東京都障害者差別解消条例を掲載しております。（3）障害者虐待防止法では、法の概要や障害者虐待の具体例、障害者虐待発見チェックリスト、東京都の取組を掲載しております。（4）ヘルプマークと（5）ヘルプカードでは、それぞれ外部サイトと都のホームページに飛ぶようにしております。（6）障害者に関するシンボルマークでは、ヘルプマークをはじめ、障害者のための国際シンボルマークなど、10種類のマークを掲載しております。（7）障害を知るでは、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害のそれぞれの障害特性や場面別のサポート方法を掲載しております。（8）サポート方法では、街の中で困ったことのほか、先ほどの（7）障害を知るページの場面別のサポート方法にリンクをしており、それぞれサポート方法を確認できるようにしております。

続きまして、2ページ目をご覧ください。

3、アクセスログによる分析（G o o g l e アナリティクス）でございます。（1）の概要をご覧ください。G o o g l e アナリティクスはG o o g l e が提供するアクセス解析ツールで、登録したサイトのユーザーの行動に関するデータ収集が可能です。「ハートシティ東京」において、平成31年3月よりこのツールを導入しております。

（2）は主な結果についてでございます。まず、アクセス数、ユーザー割合についてです。令和4年度の1か月当たりのアクセス数は約1万6,500件となっております。次に、デバイス別ユーザー割合です。令和4年4月から10月ではモバイル使用者が最も多く、70%、次いでデスクトップ使用者が多く、27%となっております。次に、ユーザー属性です。測定可能数のみですが、年齢別ユーザー数は令和4年4月から10月では20代後半から30代前半の方が最も多くなっております。次に、ページビュー数です。令和4年4月から10月では、先ほどご説明いたしました「2、サイトの構成・内容」、前のページですね、こちらの（7）障害を知るといふところのうち、精神障害のページの閲覧履歴が最も多く、次いで知的障害のページ、肢体不自由のページが多いという状況になっております。ページビュー数のグラフをご覧くださいと、閲覧されているページの大半が「障害を知る」という障害特性に関するページでございます。最後に、直帰率についてです。直帰とは、サイト内の1ページのみ閲覧をしてサイトを出たというセッションを指します。令和4年4月から10月で平均82.6%と高い状況となっております。以上の結果を踏まえまして、都としましては、今後、サイトを改修するに当たりましては、サイトの利活用のためにユーザー目線でのコンテンツの配置やサイト内での誘導を行う必要があると考えております。

それでは、引き続き資料4-2、「ハートシティ東京」の改修についてをご覧ください。まず、1の改修目的について大きく分けて二つございます。一つ目としまして、既存のコンテンツをユーザー目線で分かりやすく掲載し、都事業のより一層の普及啓発を図るということです。また、二つ目としまして、障害者情報アクセシビリティ施策推進法の制定に伴い、障害特性に応じた情報保障について、普及啓発を図るということです。

次に、2の改修内容（案）ですが、（1）既存ページの更新としましては、トップページにスライドショーを挿入することと、既存ページを分かりやすく再構成することを考えております。スライドショーは福祉保健局のホームページなどでは、例えばヘルプマークのようなスライドを設定し、スライドをクリックすると都のホームページのヘルプマークのページに飛ぶというような設定をしております。ハートシティ東京でも同様の設定をしたいと考えております。既存ページの再構成としましては、先ほどG o o g l e アナリティクスの結果にてお伝えをしましたが、特定のページのみを見ているという直帰率が高い状況ですので、サイト内の導線を分かりやすくするなどして、改善をしていきたいと考えております。委員の皆様からもぜひご意見をお願いできればと思います。

次に、（2）新規ページの作成についてです。障害特性に応じた情報保障、東京都手話言語条例、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法に関するページを新たに作成したいと考えております。新規のページに関する掲載原稿案は、資料4-3にございますが、後ほど

ご説明をさせていただきます。

次に、3の今後のスケジュールについてです。本部会にて、検討意見をいただきまして、2月から3月頃に改修案を確定し、第2回の部会にて報告をしたいと考えております。改修案の確定に当たりましては、もう一度、委員の皆様にご意見を頂戴する予定でございます。そして3月末に改修後のホームページを公開するスケジュールとなっております。

資料3及び4-1、4-2に関する説明は以上でございます。

○川内部会長 ありがとうございます。

今、全体のご説明がありましたけれども、何かご質問、ご意見のある方、ご発言をお願いします。

じゃあ、佐々木さん。

○佐々木委員 都盲協の佐々木です。

全体なところではなくて、部分的なところでご質問したいんですけども、篠課長のご説明の中にあった新しいホームページの考え方として、最初のページに、あれは絵に基づいて、その必要なページに飛ぶという方法があるということをお聞きしましたが、それ、絵だけですと、視覚障害者は何の絵だか分からないので、その絵のところに何々の絵と書いて、キャプションか何かつけていただいて、それと同時に併せて、ここにクリックすればそのページに行けますとか、あるいはここでエンターを押せば必要なページに行きますよとかという、そういう解説をしてほしいということです。要するに絵だけでは、我々はその必要なページに飛べないので、その辺の配慮があるのかなと思いました。あればそれにこしたことはありませんので、ぜひ、なかったらつけるようにしていただきたいと思います。

○川内部会長 いいですか。どうぞ何かお答えがあれば。

○篠課長 ご質問ありがとうございます。今のお話は大きなバナーということをイメージすると分かりやすいのですが、そのバナーをクリックした際に、代替のテキストをつけてほしいというようなご意見かと思います。そちらにつきましては、代替のテキストがつけられるかどうかも含めて確認をさせていただきます。配慮できるような形にしていきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

○佐々木委員 分かりました、よろしくお願いします。

○川内部会長 川内です。

今のサイトは、今やってるサイトですね。それぞれの項目に従って、今おっしゃったタイルというか、バナーというか、それがあって、それをクリックしたらそのところに飛ぶようになってますよね。そこには、既にオルトのようなこのサイトは何を示してますかというものがついてるんですか。

○篠課長 ついてます。

○川内部会長 ついているんですね。

○松川課長代理 はい。

○川内部会長 ついてるのであれば、それと同じようにこれからもするというご説明ですか。

○篠課長 そうですね。視覚障害のある方への配慮として、代替テキストを設けるというのは必要な

ことと考えておりますので、改正後も同様にさせていただきたいと思っております。

○佐々木委員 お願いします。

○川内部会長 川内です。

もう一つはスライドショーを入れるという話がありましたよね。そのスライドショーのところもクリックしたら飛ぶような話があったと思うんですが、スライドショーというのはあれですよね、数秒おきに画面が変わっていくわけですよね。その画面が変わるたびに、そこにやっぱり今の代替テキスト、だからカーソルをそこに持っていったら、これは何のスライドが映ってますとかというのが出てくるようにできるんですか。そうなるかどうかは私には分からないんですけど。

○篠課長 ただいまのご質問なんですけれども、スライドショーにそれぞれのスライドに代替テキストをつけるというような形で、仕様書上は設定をしておりますので、スライドショーを新たに採用した場合にも、代替テキストがつけられるようにしていきたいというふうに思っております。

○川内部会長 ありがとうございます。つまり、画面に2種類あるということですね。数秒おきに画面が変わっていくところと、それからタイルですね、四角なものが何枚かもう既にあるって、ここは画面は変わらない。どっちにも代替テキストがつくということですね。はい、ありがとうございます。

ほかにありますか。

じゃあ、私のほうから。そもそも改修のところで「ユーザー目線で分かりやすく掲載し」と書いてありますけれども、ユーザー目線って、どんなユーザーが見てるかというのは分からないわけですよね。だからユーザー目線ってどういうことなんですか。

○篠課長 ご質問ありがとうございます。こちらの特設サイトにつきましては、広く一般の方に障害者に対する理解を深めていただくということを目的につくったものでございまして、まずは広く一般の方が見ていただいたときに、より障害者理解を深めていただけるようにというところ、またそれに加えて、障害のある方がこのサイトをご覧になったときにもより使いやすいようにというところは大事にしていきたいというふうに考えております。

○川内部会長 ありがとうございます。これ都が計画されているかどうか分かりませんが、実際にモニターとして使ってみて、その方々の意見とかいうのは聴取されるんですか。

○篠課長 モニターというところでございますけれども、今回の改正に当たりましては、本部会の委員の皆様にご参加をいただきまして、ユーザーの目線からご意見を頂戴した上で確定をしていきたいというふうに考えております。

○川内部会長 ということで、皆さん試してみてくださいということですね。

それから、もう一点お聞きします。4-1で、2ページ目にアクセス数があるんですけれども、昨年の10月辺りですか、何かぴゅうっと伸びてますよね。これ10月か8月か分かりませんが、多分オリパラ関係かなという気はするんですけれども、その後、令和3年に入ってからそれ以前よりもアクセス数伸びてますよね。令和3年以降は2万アクセス、1万5,000から2万アクセスぐらいなことになってますよね。それ以前は1万アクセスを切っている状態になってますよ

ね。ここでおっしゃってる1か月当たりのアクセス数というのは、令和4年度ということを書いていますけれども、これ算術平均ですか、つまり毎月のアクセス数を足して、月の数で割ったという形がこれですか、1万6,500件ということですか。

○篠課長 今、川内部会長おっしゃったとおりの積算になっております。

○川内部会長 川内です。

どうして、今年になって増えたんですか、その辺は分析されてますか。

○篠課長 今年になって増えた理由につきましては、正直なところ、十分な分析ができておりません。

ただ今年になりましてから、手話言語条例の制定等もございましたので、何かしら情報保障や、あるいは障害理解というところにご関心のあった方がこのサイトをご覧いただいたのかなというふうには受け止めております。

○川内部会長 ありがとうございます。

ほかに何かご質問とかありますか。よろしいでしょうか。後で質問浮かんできたということならば、後戻りしてご質問いただいても結構です。

じゃあ、続いて事務局のほうから説明をお願いします。

○篠課長 それでは、引き続き、資料4-3及び資料5について説明をさせていただきます。まず、資料4-3のホームページ掲載原稿案についての説明をいたします。

全体の構成イメージにつきましては1ページ目のとおりでございます。障害特性に応じた情報保障としましては、各障害種別の一覧を掲載いたしまして、それぞれの障害種別をクリックすると、情報保障ツールの紹介や様々な場面での具体例を掲載するイメージで考えております。お時間が限られておりますので、原稿案そのものの読み上げはここでは割愛させていただきます。

掲載概要としましては、資料4-3の最終ページ、14ページの次につけております資料4-3参考資料をご覧ください。障害特性に応じた情報保障の掲載案一覧表となっております。

まず、視覚障害ですが、情報保障ツールとして、点字、拡大文字、テキストデータ、デイジー、音声コードを紹介いたします。具体例としましては、日常生活の場面では、音声による案内、事前のホームページによる案内、相談窓口の設置を行うこと、代筆、代読を行うこと、点字ラベルをつけることに関する事例を掲載します。会議・イベントの場面では音声ソフトなどで読みやすいようワードやテキストデータ形式で、事前に資料を送付すること。発言は1人ずつゆっくり、はっきり行うこと。発言者が分かるよう最初に名乗ること。申出に応じてスクリーン等に近い席などを確保することに関する事例を掲載します。文書、ホームページ作成の場面では、説明文書や通知、封筒について、点字版、拡大文字版、テキストデータ、音声コード化等により情報提供すること。ウェブアクセシビリティのJIS規格の参照、ユニバーサルデザインフォントやカラー、文字の拡大、背景色変更の機能をつけることに関する事例を掲載します。

次に、聴覚障害についてです。情報保障ツールとして、手話、手書き文字、手話通訳、要約筆記、電話リレーサービス、ヒアリンググループ、コミュニケーションボード、災害時バンダナを紹介いたします。具体例としましては、日常生活の場面では、筆談、手書き文字、手話などでコミュニケーションすること、視覚的な具体的情報でやり取りすること、コミュニケーションボードや透

明マスクなどを活用すること。会議・イベントの場面では手話通訳者や要約筆記者の手配をすること。手話通訳者の立ち位置や照明の加減なども配慮すること。ヒアリンググループを設置すること。オンライン会議などで、要約筆記やチャット機能を使うこと。発言の際に挙手するなど、視覚的で分かりやすくすることに関する事例を掲載する予定です。ホームページ作成の場面では、動画を作成するときに字幕表示機能を追加するという事例を載せたいと思います。災害時の場面では、掲示板などでアナウンス内容を視覚化して知らせる。災害バンダナを活用することを事例として載せる予定です。

肢体不自由については、具体例として、日常生活の場面で探したいものの配置などにより情報を探するのが困難な場合にサポートをすること。資料提供について、郵送や電子データで対応することを事例に挙げております。

続いて、内部障害については、日常生活・会議・イベントの場面として、急に体調が悪くなった際に、別室にて情報保障を行うこと。ペースメーカーをつけている方に対し、電子機器を用いずに情報保障を行うことを事例に挙げております。

難病については、日常生活・会議・イベントの場面で本人の要望に応じて、電子データで資料提供をすることを事例に挙げております。

続きまして、知的障害、精神障害、発達障害については、情報保障の留意点などが同様な場合も多いため、まとめて掲載をしております。情報保障ツールとしては、ルビ版や分かりやすい版の作成、コミュニケーションボード、イエローカードを紹介しております。日常生活の場面では、絵カードを活用して意思を確認すること。一度に多くの情報が入ると混乱する場合があるので、伝える情報は紙に書くなどして、整理してゆっくり具体的に伝えること。周りの音が気になり集中できない場合には、別室にて情報保障を行うことに関する事例を載せております。会議・イベントの場面では、説明内容の要約や分かりやすい言葉で補足説明を行うこと。必要に応じて、事前に説明し、意見を聞く場を設けること。必要に応じて、「イエローカード」を用意すること。会議の情報がきちんと守られることを前提に、理解を援助する者の同席を認めることに関する事例を載せております。文書作成の場面では、記入例を作成し、どこに、何を記載すればよいのか分かりやすくすること。必要に応じて、漢字に、平仮名のルビを振った資料や、図やイラストを使用した資料、分かりやすい版の資料を作成することに関する事例を載せております。災害時の場面としては、避難場所や避難時の注意点などの視覚的な手がかりや、避難経路に目印を設置することに関する事例を載せております。

最後に、高次脳機能障害です。日常生活の場面では、直近のことは忘れてしまう場合があるため、メモを活用して、情報入手をサポートするという事例を掲載する予定です。

続きまして、資料5、情報保障に関する事例をご覧ください。

こちらでは、内閣府の「障害者差別解消法【合理的配慮の提供等事例集】」や東京都障害者差別解消法ハンドブック、協議会や昨年度の部会で検討していただきました東京都「障害者への合理的配慮に関する事例集～感染症対策編～」、それから都権利擁護センターへの相談事例から、情報保障に関する事例を抽出して載せております。資料の右端に事例欄がございまして、そちらに

丸がついておりますものは、一部修正の上、先ほどの資料４－３のホームページ掲載案に載せてございます。

委員の皆様には、情報保障ツールや具体例の内容変更などが必要ないか、また、障害特性によって情報保障ツールと具体例の数に差が出ておりますので、追記すべき内容などがないかご検討いただければと存じます。

資料４－３と資料５の説明は以上でございます。

○川内部長 ありがとうございます。

ご質問やご意見のある方、ご発言をお願いしたいんですが、その前にちょっとこの資料５については、佐々木さんには既に情報提供されてるんですか。

○篠原課長 はい。

○佐々木委員 受けてます。

○川内部長 はい。分かりました。

じゃあ、ご質問、ご意見のある方、ご発言お願いします。

じゃあ、どうぞ、佐々木さん。

○佐々木委員 佐々木です。

情報保障いただけてます、ありがとうございます。その上でご質問したいんですけど、ホームページの、新しいホームページについてということで構想が書いてありまして、四つばかり質問がありまして、一つ目がイラストを入れると書いてあるんですけど。うん、このイラストって視覚障害者がどんなイラストか分かるイラストなのでしょうか。要するに、イラストは中身と関係ないということではなくて、恐らく何かしらイメージしたものだと思いますが、ぜひ分かれば、我々もそのホームページを見るなり、何ていうのかな、気力を充実させて読むことができる。最初にそういうのが分からないとちょっと萎えてしまうので、それが１番目ですね。

二つ目が、情報ツールということについて、点字、拡大文字、音声、デイジー、そしてユニコード、この四つ、主なものを全部提起していただいて、非常にこれで充実していただければありがたいんですけど。これって疑っては何ですけど、要望すれば、この四つのうち必ずやってくれるのか、いや全部やってくれてことではなくて、必要な媒体でということが趣旨ですから、その方がもしユニコードが欲しいと言ったらユニコードで全部、いつの場合でもやってくれるのか。その辺の、これは情報保障ではなくて、この情報保障をする、提供の保障みたいのがあるのかなと思ひまして、これが二つ目の質問で。

三つ目が、会議・イベントというところがありまして、非常に有意義なことが記載されておりますが、ちょっと加えてほしいのは、会議場、会議している場所の説明を加えてほしいなと思っております。例えば今日、最初に篠原課長のほうから、この中でどの位置に座ってるかということを説明がありましたが、これは、このこういう部会ですからあったということで承りまして、どんな会合でもこのような説明を冒頭していただくとありがたいです。

それともう一つ、加えるならば、大きい会場ですと、例えばしゃべってる方とスピーカーの位置が違ったりすると、我々はスピーカーのほうを見て、話を聞くということになるので、この辺を

うまく説明してくれないかなと思っております。

四つ目が、ホームページとか文書のところで、先ほどいただいたような四つの方法で対応できるということでありがたいんですけど、この中に、この項目については、学生のテストのこととかは書いてあるんですが、これについては、当然必要な媒体で設問をつくっていただくというのはいがたいんですけども、その場合は時間的な配慮も必要、ただ、時間的配慮が今回のテーマと即してるかどうか分かんないんですけども。もしなされましたら、時間的配慮も必要であるようなことを書き添えていただくとありがたいなと思っておりまして、四つばかり質問させていただきました。よろしくお願いいたします。

○川内部長 では、お答えをお願いします。

○篠課長 ご質問とご提案をありがとうございます。

まず、一つ目のイラストにつきましては、視覚的な情報のほうが分かりやすい方のためにテキストの内容をイラストでも示せるよう、テキストに関連するイラストを考えておりますが、イラストにつきましても、先ほどのように代替のテキストは考えていきたいというふうに考えております。

○佐々木委員 ありがとうございます。

○篠課長 二つ目の情報のツールでございますけれども、おっしゃるとおり、これはご本人の希望に応じて、必要なツールで提供するということについて、何かしらの形で表記できるようにしていきたいというふうに思っております。

○佐々木委員 望めば、どれかで対応していただくということですね。できればそういう場合、もしその要望、何ていうのか、テキストする場所が、直接の相手がなかなか応じてもらえなかったときには、こんなところと言えば、あるいはこういう方法があるよということまで、このホームページのように考えて、もし今日、教えていただければ、そういうような考え方も考えていただければいいと思いますので、よろしくお願いします。

○篠課長 こちらのほうは主な情報保障のツールということで、ホームページでご紹介をしていきたいというふうに考えておりますが、個々の合理的配慮の提供の場面におきましては、個々の方のご希望と、それから事業主側が過重な負担のない範囲で何ができるかというところをお互いにすり合わせをして、可能な限りの対応をしていただきたいというふうには考えております。

○佐々木委員 分かりました。そうすると、東京都条例の障害者差別解消条例のほうの建設的対話のほうの話ということになるわけですね、今のお話は。

○篠課長 そうですね。こちらでご紹介するツールを必ず絶対やってくださいというよりは、情報保障のツールとして、このようなものがありますよということを周知して、その上で個別具体的な対応については、差別解消条例でも言っております合理的配慮の考え方で対話をしていただければというふうに考えております。

○佐々木委員 じゃあ、ぜひこの建設的な対話のほうでうまく運ばばいいなと思ってますので、あるいは合理的配慮の条例のほうの中でうまく対応していただければいいなと思っていますので、お願いいたします。

○篠課長 続きまして、三つ目の会議の際の会議の場所の説明ですとか、席の配置、スピーカーの位置の説明等につきましては、ただいまご提案をいただきましたので、具体例の内容として盛り込んでいきたいというふうに考えております。

○佐々木委員 ありがとうございます。

○篠課長 続きまして、四つ目の学生さんのテスト、視覚障害のある方に関しては、時間的な配慮も必要だということにつきましても、それが情報保障の観点から必要であるというご意見と受け止めましたので、これに関しても具体例として記載できるように検討したいというふうに考えております。

○佐々木委員 ぜひお願いいたします。ありがとうございました。

○川内部会長 ありがとうございます。ちょっとこれが、今の佐々木さんのご質問の辺り分かりにくいのは、合理的配慮の全てを言ってるわけではないですよ。こういうやり方もあります、こういうやり方もありますということ为例示して、例えば佐々木さんが点字で提供してくれと求めても、それはちょっと時間もかかるし、今すぐに提供できませんけど、テキストデータではどうですかねというふうなことが建設的対話になるわけですよ。そうやってお互いの落としどころを目指していくという形になると思うんですけども、今の時間延長とかいうのは案外気づきにくいところで、だけど当事者のほうとしては合理的配慮のところで要求して、実際に試験なんかでは実現してるものが多いわけですけども、そのような現実的によくやられていることとか、そういうふうなものはここに並べるとしたら、例えば試験のときなんか別に別室で試験受けてるとかそういうのもいるし、それから午前中は駄目で午後とかいうような人もいるわけですよ、授業を受けてる人なんかではね。ですから、どこまで入れるかというのは、ちょっと全部は多分入れられないと思うので、ただ単にこういうやり方もありますというメニューを並べるのか、あるいは具体的にこういう事例もありますというようなことを網羅的に入れるのかというのは、ちょっと検討されたほうがいいかなというふうに思いますね。

ほかにご質問ありますか。

工藤さん。

○工藤委員 D P I 日本会議の工藤です。

質問というか、ちょっと要望なんですけれども、肢体不自由の場合、介助者を同伴して一緒に行動する方が結構いらっしゃいます。そういう方が外出先でサポートを求めたときに、本人ではなく介助者のほうに話しかけられてしまうということがすごくたくさんあります。本人の用事で出かけていて、本人のサポートが必要なので、そういうときは介助者のほうではなく、本人のほうに話しかけていただきたいということで、ちょっとそういった文言をどこかに入れていただきたいなと思ってます。中にはコミュニケーションが難しくて介助者のほうに任せたいという方もいるとは思いますが、そういったときは本人の要望に従うということで。ただ、あくまでも本人の、何ていうんですか、意思を尊重するということをちょっとどこかに書いていただけたらと思います。

以上です。

○本田委員 はい。

○川内部会長 ちょっと待ってください。篠さん、何かありますか。

○篠課長 ご提案ありがとうございます。肢体不自由の方にとって、本人の意思を尊重するために、本人とコミュニケーションを取るというところは非常に重要であるというお話、今いただきましたので、それも具体例として反映できるよう検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○川内部会長 これは肢体不自由に限らないですね。

じゃあ、本田さん。

○本田委員 いえいえ、今その話を。東京つくし会の本田です。

今、川内先生と同じ話をしようと思っておりました。特にガイドヘルパーを使って視覚障害なんかはヘルパーさんに話しかけるというのは日常的に行われていることで、使っているのは障害者本人ということですので、大前提として、割と大きな文字で書いてもらおうとか、したほうがよろしいのかな。全般的に皆さんそういう傾向が日本全国どこに行ってもありますので、よろしくお願いします。

○川内部会長 ちょっと先ほど私が申し上げたことと関連するんですが、何か間口が広がりつつあるんですよ、今。ここで今、都のほうが出されているのは、こういう道具がありますよというのを列挙するというイメージだったんですけども、今は接遇のやり方全般に広がりつつあるんですね。

ですから、それをどう扱うかというのは、ちょっと検討が必要かなという感じがしますね。当事者側としては接遇全体としてきちんとあって、その中でこういう道具が使えるというふうなものですけれども、都からの案というのは、接遇全般のところは最初多分なかったんだと思うんですね。こういう道具がありますよというのを列挙するということから始まっているので、ちょっとそこは整理しないといけないかなと思います。

○篠課長 ご提案ありがとうございます。サイトの全体の中で障害者差別解消法のページ等もごさいますので、ただいまいただきましたご意見を踏まえて、どのような形で再構成すればより分かりやすく大事なことを伝えられるかという視点で検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○川内部会長 川内です。

ちょっと追い打ちをかけるようで申し訳ないんですけど、差別解消法とか、差別解消条例のほうでそれを書いても、例えば視覚障害のある方にどういうツールがあるかなと思う、それを探しに来た人はわざわざそっちに飛んで、見たりはしないんですよ。ですから、それをきちんと基本的な接遇態度の中にこういう道具立てがありますよということが理解してもらうようなホームページの構成というのをちょっとお考えいただきたいなというふうには思います。

ほかにありますか。

○唯藤委員 はい、唯藤です。

○川内部会長 唯藤さん。

○唯藤委員 東京都聴覚障害者連盟の唯藤です。

先ほどお話がありました内容、工藤さんがお話ししてくださった内容と同じなんですが、聞こえない立場でも同じです。手話通訳者と一緒にいるとき、相手は手話通訳者に話しかけることがあります。聞こえない本人がいなくても通訳者に代わりに、これをやっってくださいみたいに通訳者に話しかけるということで同じだと思います。そのところ、場面場面に応じて、はっきりと載せていただきたいと思います。ありがたいと思います。

それから資料について、2点あります。

資料5の1ページの表です。表のところの「盲ろう」と書いてあるところがあります。これを見ると、聞こえるということで「盲ろう」というのは二つ障害を持っている、見えない、聾という二つ障害を持っているということです。ここに入れる目的が分かりません。「盲ろう」の対応例を入れるのであれば、「盲ろう」だけの欄をつくって載せたほうが分かると思います、載せることが必要です。

二つ目は聴覚障害者、番号24番目です。オンライン会議のところで、資料を見ているけれども、先ほど資料を頂きました。それは大事なことです、前もって資料を頂くのは大事なことです。あと、Z o o mの場合は画面を見るときが多いです。ですから、画面共有で資料を出すという方法があります。それを載せていただきたいと思います。

以上です。

○川内部長 事務局、何かありますか。

○篠課長 ご意見ありがとうございます。一つ目の「盲ろう」の方の扱いにつきましては、こちらのほうに載せております内容は、昨年度部会でご検討いただきまして、主に場面ごとに感染症対策を踏まえた合理的配慮をどのようなことが必要かというご議論の中で、そういった配慮が必要な方としましては、視覚障害者もそうだし、「盲ろう」の方もそうだとところで載せさせていただいているものでございますけれども、今回のホームページの改修に当たりましては、障害種別に整理してまいりますので、「盲ろう」と視覚障害を一緒にするのではなく、「盲ろう」という項目をつくることを検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○唯藤委員 ぜひお願いします。

○篠課長 はい。2点目のナンバー24のところに、画面共有についても事例として載せてほしいということをご提案いただきました。これにつきましても検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○唯藤委員 ありがとうございます。よろしくお願いします。

○川内部長 ほかにありますか。

じゃあ、ちょっと私のほうから。資料4-3ですが、それ……。

ごめんなさい、その前に、ホームページの構成の図は資料何番でしたっけ。いっぱい資料があつて分からない。この資料4-3の前ですね。どういうの、こんなものって四角が三つ、四つ書いてある。4-3。ごめんなさい、私が、ああそうか、見てるのは参考資料だ。とにかくいいです。それにすごく気になったのは、まず困り事から入ってるんですね。今すごく社会の風潮が私は気になっているのは、障害のある方イコール困っているというふうなイメージをものすごく社会が

持っていると思うんですね。それは確かにそうなんですけれども、だけど、常に困ってるわけではないわけで、困り事から入るという、こういうことが困ってます、こういうことを困ってますということから入るというのは、障害のある方の全体像を伝えていないんじゃないかという気がすごくしています。なので、このことについては、具体的にどうすればいいかというのは、またご相談できればと思っています。

それから次に資料の4-3の参考資料のほうですが、聴覚障害のところ、日常生活のところに筆談と手書き文字というのがあるんです。筆談というのも多くの方が間違えるのは、妙に丁寧に長々と書いてしまうんですけども、箇条書で簡単に書けばいいよというようなこともコツとしてあるわけで。その後、手書き文字というのがあるって、筆談と手書き文字がどう違うのかが私にはよく分からない。それから手話というのもありますけども、手話のできない人にとって、とっても有効な手段は身ぶりですよ、手話ではなく身ぶりというのがあります。ですから、などとは書いてありますが、身ぶり辺りも入れてもいいんじゃないかなとは思っています。

それから次に、視覚的な具体的情報でやり取りするという、具体的情報というのは、これはこういうものを入れますということなので、これそのものがホームページには入らないと思いますが、具体的情報というのは、どういう意味なのかというのをちょっとご説明いただきたいということ。それから1ページの一番下で、申し訳ありませんが、災害バンダナというのは、私には具体的によく分かっていないので。もしもホームページに載せられる場合だったら、災害バンダナがどういうものかということの説明も伝えていただきたいということ。

それから、2ページの肢体不自由で1行目に「情報を探すのが困難な場合」というふうにあります。探したいものの配置等により、情報を探すのが困難。つまり、これは具体的に言うと、高いところに物があって、商品名が見つからないとか、そういうことかなと思って見てるんですが、それをご確認いただきたい。

それからその下、資料提供につき、郵送や電子データで対応するというのがあります。電子データというのは分かります。肢体不自由の中でパソコンを中心にやってらっしゃる人もたくさんいらっしゃるんで、電子データは分かるんですが、郵送というのがよく分からないので、これはご説明いただければと思います。

以上です。

○篠課長　ありがとうございます。たくさんいただきましたが、まず1点目のホームページ掲載原稿案の具体例のところ、困り事から入るところがちょっとどうかということについては、相談させていただきながら、どのような表現がいいかということを検討していきたいと思っています。

2点目の聴覚障害者のところ、日常生活のポツの一つ目の文章ですが、筆談と手書き文字の違いですとか、身ぶりも記載したほうがよいのではないかとこのところにつきましては、文言の整理をさせていただければと思います。

また、3点目として、視覚的な具体的な情報というところで、例えば感染症対策をイラストでご案内しているようなものをイメージしておりましたが、ちょっと分かりにくいところもございますので、こちらも文言の整理をさせていただきたいと思っています。

次に、4点目の災害時バンダナというところは、こちら聴覚障害の団体の皆様が作られていたり、あるいは自治体でも作られてるというふうに聞いておりますけれども、バンダナに「私は耳が聞こえません」という文字が書かれている、あるいは「手話通訳者」という文字が書かれており、バンダナとして体に巻くことで視覚的に障害があること、あるいは手話通訳者であるということが分かりやすく示せるものということで、ご活用されているというふうに聞いておりましたので、紹介ができればというふうに考えた次第でございます。

続きまして、肢体不自由のところの日常生活のポツの一つ目の表現ですが、川内部会長おっしゃるように、イメージとしては、スーパーなどで高いところにある商品が見えづらいというようなところをイメージしておりますが、やはり表現として分かりづらいというご指摘もございましたので、こちらについても文言の整理をさせていただければと思います。

最後に、同じく肢体不自由のポツの二つ目の資料提供で、郵送や電子データというところにつきましても、わざわざ窓口に来るのではなくて、郵送でというようなイメージでございましたけれども、そこも分かりづらい表現かと思しますので、これも表現の工夫をしていきたいというふうに考えております。いろいろありがとうございます。

○川内部会長 すみません、最後の説明が分からない、わざわざ窓口に来るのではなくて、郵送でおっしゃいましたが、どういうことですか。

○篠課長 移動が困難な方々に窓口に取りに来てくださいというのではなくて、可能であれば郵送で送るというようなところも、こちらに関しましては、資料5のナンバー32の事例を踏まえて書いたものでございまして、申請の用紙を送ってもらおうとしたが、取りに来るように言われたということに対して、郵送という配慮をという意味で書かせていただいたものですが、ちょっと表現は分かりやすく工夫したいと思います。

○川内部会長 分かりました。アマゾンなんかで来るとパッケージを開けるのにすごい苦労するんですね。なので、肢体不自由だと、開けること自体が大変かなと思っていましたが、趣旨は分かりました。なので、私のように勘違いする人がいないように書いていただければと思います。

ほかに何かありますか。なければちょっと時間も超過してますので、この辺りで……。

○唯藤委員 すみません。あります。

○川内部会長 唯藤さん、どうぞ。

○唯藤委員 資料4-3についてです。ちょっとお伺いしたいんですが、よろしいでしょうか。4-3の2ページ目です。すみません、6ページになります、失礼しました。聴覚障害者のところでお伺いしたいところがあります。手話通訳派遣というのがあると思います。括弧で「聴覚障害者情報文化センター」と書いてありますが、これは間違いでしょうか。「東京手話通訳等派遣センター」ではないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。そちらを確認していただいてもよろしいですか。

次、7ページです。

手話通訳派遣の会社というのがあります。派遣をする会社があります。その会社について、聴覚障害者に関わっている派遣センターと、いろいろなちょっと問題がありますので、できればそち

らは省いていただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。情報として、載せなくちゃいけないのか、ちょっとそこが迷うところなんですけれども。

以上です。

○篠課長 ご指摘ありがとうございます。確かに、5ページの手話通訳派遣のところの米印参考というところ、「聴覚障害者情報文化センター」というふうに書いておりますが、これは「手話通訳者等派遣センター」の誤りでございます。一方、7ページ目で、確かに手話通訳者を派遣できるのは手話通訳者等派遣センターだけではございませんので、ほかにも団体があるというところも考慮いたしまして、この5ページのところと7ページの団体名については、表現を変更させていただきたいというふうに思います。ご指摘ありがとうございます。

○川内部会長 ほかにありませんか。

○吉田委員 よろしいですか。

○川内部会長 はい。

○吉田委員 東難連の吉田です。

さっき資料を郵送で送るというのがあります。あそこに難病の人たちも入れていただけますか。自分で取りに行くと大変です。それから本当のこと言いますと、私たちは、医療券を頂いておりますよね。その手続も自分じゃ動けない人たちがするとすごい大変なので、そういうこともちょっと考慮していただけたらなというふうに考えております。

○川内部会長 何かあれですね、窓口で資料を取りに行くより郵送してくれるなら、どの障害であろうと、みんなのような気もしますけれど。

○本田委員 みんなそうと思いますよね、本当はね。

○川内部会長 今、難病とおっしゃいましたが、内部障害のある方もそういう傾向は多分強いと思うし、ちょっとあれですね、この辺も対象というのを絞るようなものかどうかというのはちょっと考えどころかもしれませんね。

ほかにありますか。

では、すみません、時間が大幅に延びてますが、これで事務局のほうにお返ししたいと思います。活発なご意見ありがとうございました。

○篠課長 事務局でございます。

本日は大変活発にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。本日の議事につきまして、追加のご意見等がございましたら、12月20日火曜日までに事務局宛てにメールなどでお送りいただければ幸いです。

なお、次回部会の開催日につきましては、改めて事務局よりご案内をさせていただきます。本日、机上に配付しております資料につきましては、お持ち帰りいただいて構いません。また、お車でいらっしゃる方は駐車券をお渡しいたしますので、事務局までお声がけください。

それでは、本日の会議はこれにて終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(午後4時15分 閉会)